

NP Topics

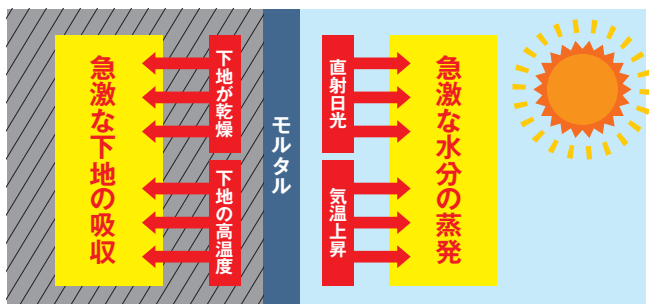
ドライアウトに**要注意!**

ドライアウトはモルタルの硬化不良・強度不足の危険性が高まります。

夏期

発生する主な原因

- 外気温の上昇 ●下地温度の上昇
- 下地の乾燥 ●直射日光 ●風…など

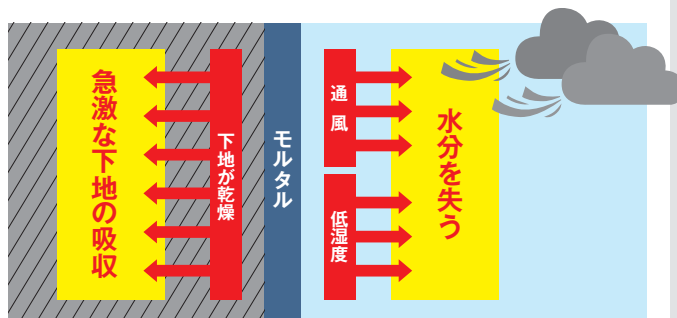


夏期は、高温や直射日光の影響により、モルタルの過度な水分蒸発を生じ、ドライアウトしてしまうことが多くあります。急激な下地の吸水によっても水和反応に必要な水分を失ってしまい、ドライアウトの原因になります。

冬期

発生する主な原因

- 下地の吸水が大きい ●気温が低い
- 通風(北風) ●低湿度(空気の乾燥)



冬期は、気温が低いため、モルタルに強度が出るまで時間がかかります。その不安定な状態にあるモルタルが、硬化過程で通風や低湿度の影響を受けると、水和反応に必要な水分を失ってしまい、ドライアウトの原因になります。

強度がでない!!



重大なトラブルに直結
硬化不良・強度不足
ひび割れ・浮き

ひび割れが入った!!



ドライアウト対策

【下地の吸水が大きい場合】

1. 吸水調整材 (NPシーラック) の塗布
水分が急激に下地に吸われるのを防止します。下地の吸水性を均一にする役目も担います。
2. 樹脂 (NPシーラック) の混入量厳守
適正量混入しないと、ドライアウトの危険性は高まります。

【気温が高い、直射日光が当たる場合】

1. 散水養生
未反応分のセメントの水和反応が促され強度が回復します。翌日以降の早い時期に行くと効果的です。
2. シート養生
通風や日射を避け湿潤状態を確保できます。降雨を防ぐ観点からも大事な措置です。

【部分補修等で塗り厚が薄くなる場合】

1. 散水養生
未反応分のセメントの水和反応が促され強度が回復します。翌日以降の早い時期に行くと効果的です。
2. 次工程前に下地の硬化状況を確認する
ドライバーや釘などで引掻き、硬さの程度をチェックしてから次工程に進んでください。

「ドライアウト=不具合に直結」を良く認識し、目違い処理などでの極薄塗り施工を回避することも一案です。